

リーズオブゴッド教団の内村撤母耳（さむえる）牧師が会長に選ばれたり、これまでに7支部中、3支部の支部長が日本基督教団以外の教団に属する教職から選ばれたことなどからも分かるように、こころの友伝道は教団教派を越えた超教派の運動体として発展してきました。最近でも、夏の全国大会には必ず何人かの日本基督教団以外の教団に属する教職・信徒の参加が見られます。（注・こころの友伝道の詳しい歴史は、本シリーズ①から③を参照してください）

2 資金の特色

このように、こころの友伝道は、いずれの組織、教団にも属せず、超教派の運動として活動してきたので、特定の団体から資金の提供を受けることは一切ありませんでした。その活動資金は、1954年から、毎年開催してきた全国講習会（現在は全国大会）での献金や賛助献金で賄ってきました。この資金で活動を長年維持できたのは、部外の特別講師等にはお礼を払うものの、機関紙を有料とし、会内の教師、事務担当教職、事務局員、様々な信徒の奉仕者には、一部の交通費、アルバイト料を除いて一切お礼などを支払わないことでやりくりして

きた結果と思われます。事務局を置いた教会（主として日本基督教団新宿西教会）にも僅かな使用料で長年事務室を提供してもらってきました。まさに教会、教職、信徒がお互い手弁当でこの活動を支えてきた訳です。現在では、「こころの友伝道」紙の紙代献金、クリスマス献金、年度末の活動維持献金、全国大会時の献金などを活動資金としていますが、コロナ禍で大会が開催できなかったことや、大会参加者の減少などで、資金状況は常に厳しい状態にあります。しかし、これまでも乏しい時にこそ思いがけない多額の献金を頂くなど、神さまの不思議な助けを幾度も経験してその活動を続けることができたのです。

このように、資金や活動に関してバックアップ団体を有しない伝道団体であるこころの友伝道全国連合会が、超教派での運動を55年（その前身での活動を含めると約70年）の長きにわたって継続してこられたことは、日本のキリスト教界では稀な事であり、この活動への主の力強い御支えを改めて覚えて感謝したいのです。これからもこの活動は主の業という誇りと祈りとをもって、その歩みを続けていきたいと願っています。 ▲